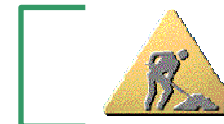


思川だより

独立行政法人水資源機構 思川開発建設所



工事の進捗状況

思川開発建設所では、1月末現在、上南摩地区をはじめ、黒川及び大芦川地区において、11件の工事を行っています。

上南摩地区においては、資機材等運搬用の工事用道路として、現県道の拡幅改良や今後の工事に向けて立木の伐採を行っています。

黒川及び大芦川地区においては、資機材等運搬時における歩行者等の安全対策として、歩道の設置や狭小道路区間の拡幅改良を行っています。

平成20年度末には、ダム本体準備工として仮排水路トンネル工事に着手し、また、各地区においても引き続き工事を進めてまいりますので、今後とも地域の皆様のご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

◆上南摩地区において施工中の現県道の拡幅改良工事



◆大芦川地区において施工中の狭小道路区間の拡幅改良工事



お知らせ 事務所の統合及び移転について

思川開発事業では、現在、職員54名が、宇都宮事務所（34名）と鹿沼事務所（20名）の2ヶ所に分かれて業務を行っています。

南摩ダムでは、今年度末には本体工事の準備工事である仮排水路トンネル工事に着手することから、いよいよダム関連工事が本格化することになります。

ダム工事の本格化に伴い、宇都宮事務所と鹿沼事務所を統合し、新たな体制で業務を執行することとなりました。

新たな事務所は、鹿沼市のご協力により、旧栗野町役場を利活用させていただくこととなりました。

現在、建物の一部改修作業に着手しており、平成21年2月16日から新事務所にて業務を執行することとなりますので、よろしくお願いいたします。



事業調整役 菅原 裕
第一池田建設課 林 幹男
道合ダム建設課 岩瀬 寿郎
道合ダム管理事務所 山塚 郁雄
田路総合事務所 康久（新規採用）
環境課 南里 康久

人事異動
◆平成二十年十月一日付で異動のありました職員を先（前任先）として紹介いたします。

編集後記

年明けてから厳しい寒さが続いております。平成21年も事業の推進に向け職員一丸となって頑張ってください。よろしくお願いいたします。



編集・発行所



独立行政法人 水資源機構
思川開発建設所
〒320-0065 宇都宮市駒生町中丸3368
Tel(028)622-8941 Fax(028)622-8945

鹿沼事務所
〒322-0346 鹿沼市上南摩187-18
Tel(0289)77-3888 Fax(0289)77-3890

ホームページ <http://www.water.go.jp/kanto/omoigawa/index.html>

平成20年度第4四半期発注予定工事について

平成20年度の第4四半期の工事発注については、ダム関連では仮排水路・放流管付設トンネル工事をはじめ、場内工事用道路が5件、建設発生土受け入れ地工事などが発注となり、付替県道関連では、4号トンネル工事用道路及び4号トンネル工事、貯水池末端部の笹之越路工区等の工事などが発注となる予定です。

〈第4四半期の主な発注予定工事〉

【ダム関連】

- ①南摩ダム仮排水路トンネル及び放流管敷設トンネル工事
- ②建設発生土受入地整備工事
- ③場内工事用道路2-1, 4, 6工区工事

【付替県道関連】

- ①付替県道4号トンネル工事用道路工事
- ②付替県道4号トンネル工事
- ③付替県道笹之越路工区工事
- ④付替県道粟沢進入路その3工事



平成21年度予算の内示について

水資源機構では、昨年12月20日に平成21年度予算の内示額を発表しました。平成21年度予算概算要求額は2,378億円で、これに対する内示額は、2,303億円（対前年比91.0%）です。

そのうち、思川開発事業は約95億円です。この額は、対前年比で約23%減となりますが、水機構のダム等建設事業の中では最大額となっており、平成27年度完成に向け、必要な工事は優先して確実に実施することとしていますので、事業完成時期に影響はありません。

平成21年度は、南摩ダム仮排水路トンネル及び放流管敷設トンネル工事の進捗を図り、導水路の準備工事（立坑）に着手するほか、県道付替工事、工事用道路工事、水理調査、環境調査、用地補償等を実施して参ります。

環境学習会（講演会）開催報告

思川開発建設所では、環境保全に対する職員の意識と知識の更なる向上を図っていくことを目的として環境学習会を開催しております。

平成20年11月25日、とちぎ健康の森において行われた環境学習会では、講師として、宇都宮大学農学部講師であり、思川開発事業生態系保全委員会委員でもある、高橋滋先生に、「昆虫の不思議な生活（アブラムシの生物学）」「雑木林の昆虫」について講演いただきました。

工事・調査関係者、思川開発建設所の職員あわせて、54名の参加者にて行われました。講演内容として、アブラムシの生態・生活環境の話をしていただき、アブラムシの意外な生態や、身近な動植物との深い関わりを知ることができました。また、栃木の雑木林に生息する昆虫については、写真を交えながらわかり易くお話をいただき、蝶やテントウムシといった身近な昆虫や、不思議な性質を持つ昆虫の話を知ることができました。さらに、蝶・カマキリ・クワガタ等の昆虫の標本を使った説明のほか、アブラムシの標本や巨大な虫瘤（むしこぶ）のついた枝といった珍しいものが展示されるなど、昆虫に対する親しみやすい内容でした。

今後もこのような環境学習会を開催し、環境保全に対する職員の意識と知識の向上に努めていきたいと思っております。



環境学習会での講演の様子



標本を持ち、昆虫について語られる高橋先生

